

INFORMATION

No. 30022

平成30年10月11日

新規保険収載および 新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、「保医発0831 第1号」により下記の検査項目
に検査実施料が新設されました。それに伴い、新規受託開始
をいたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

敬白

記

【実施日】 2018年11月1日（木）ご依頼分より

【新規受託項目】

項目 コード	検査項目	保険点数	診療報酬 点数表区分 判断料	備考
3088	25OHビタミンD (ECLIA)	117点	D007 血液化学検査の「30」 生化学的検査(I) 判断料 144点	ア ECLIA法を用いた25-ヒドロキシビタミンDは、区分番号「D007」血液化学検査の「30」KL-6の所定点数に準じて算定する。 イ 本検査は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法により測定した場合にのみ算定できる。ただし、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定する。 ウ 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守すること



一般社団法人

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号 TEL(092)852-1506 FAX(092)852-1510

● 25OHビタミンD (ECLIA)

体内のビタミンD不足・欠乏状態の評価に有用な検査です。

ビタミンDは、食事からの摂取に加え、紫外線の照射によって皮膚で産生される脂溶性のステロイドホルモン前駆体です。体内で活性型ビタミンDに変換されることで、腸管からのカルシウムおよびリンの吸収を高め、骨・ミネラル代謝の維持において重要な役割を担っています。体内のビタミンD充足状態の評価には、安定な代謝産物として血中に存在する25OHビタミンD濃度が用いられています。

体内のビタミンD貯蔵量の減少によるビタミンD作用の低下は、カルシウム代謝異常を生じ、骨粗鬆症の発症要因となります。骨折・転倒リスクの上昇につながるほか、二次性副甲状腺機能亢進症およびビスホスホネート等の骨吸収抑制剤に対する反応性低下の原因となります。

ビタミンDの不足・欠乏は決して稀ではなく、Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) 研究において、50歳以上の女性1,211例の血中25OHビタミンD濃度を測定した結果、ビタミンD欠乏例の占める割合は52%、不足例は38%であり、その後の追跡調査でビタミンDの血中濃度が低いほど将来の骨折リスクが上昇することが示唆されています。

本検査は、血清中の25OHビタミンDをECLIA法により測定いたします。骨粗鬆症を始めとする代謝性骨疾患におけるビタミンD不足・欠乏状態の判定補助に有用です。また、高齢者の骨折予防を目的とした健診での活用が期待されています。

▼疾患との関連

骨粗鬆症

▼関連する主な検査項目

骨吸収マーカー (TRACP-5b, NTx, DPD)
骨形成マーカー (total P1NP, BAP)
骨マトリックス関連マーカー (ucOC)

▼検査要項

検査項目	25OHビタミンD (ECLIA)
項目コード	3088
検体量 (保存)	血清 0.5 mL (冷蔵)
容器	① 血清用真空採血管
報告日数	3~5 日
検査方法	ECLIA
基準値	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0~29.9 (ng/mL)
検査実施料	117点 (「D007」血液化学検査の「30」)
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)
備考	

●参考文献

Batista MC, et al : Clin Chem Lab Med / doi : 10.1515/oclm-2018-0406 : Jun 11, 2018.
(検査方法参考文献)

Tamaki J, et al : Osteoporos Int 28 (6) : 1903~1913, 2017. (臨床的意義参考文献)